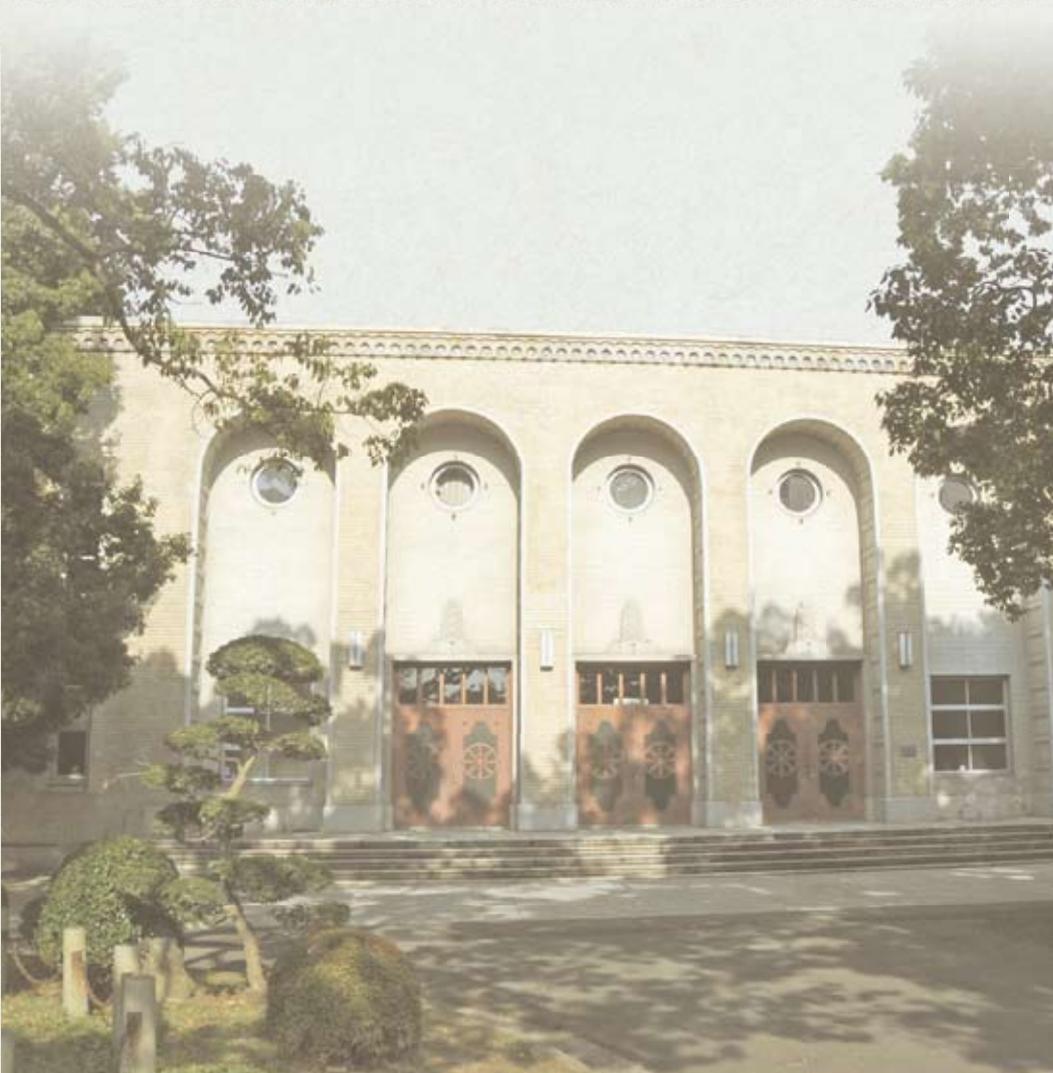


KOBE university STYLE

神戸大学

2009 AUTUMN Vol.12





K O B E U N I V E R S



キャンパスの花(表紙から)



シュウメイギク



マサキ



サザンカ



スプレーマム
'トモエフウシャ'



ハクバイ



コウバイ



スプレーマム
'セザンヌ'

I N D E X

特集:新学長・新理事	福田学長に聞く	02
	新理事はこんな人	04
特集:都市安全研究センター	大震災から始まった	06
	現場に学び貢献する	08
	ともに安全に生きるために	10
We were, We are KU	神戸大学と留学生	12
	世界に広がる同窓会	13
	国内就職希望者のために	14
	先輩からのメッセージ	15
同窓会・学友会・育友会	学友会の新会長に高崎さん	16
	育友会全学懇談会開催／《先輩登場》同窓生と昆虫館を復活	17
保健管理センターだより	神戸大学における産業医活動	18
	歴史のひとこま 国登録有形文化財「神戸大学社会科学系図書館」	20
神戸大学生の愛唱歌	学生歌「この丘陵に」	21

I T Y S T Y L E

神戸大学の第13代学長に2009年4月、自然科学系先端融合研究環長だった福田秀樹教授が就任しました。任期は4年です。

「神戸大学ビジョン2015」が掲げる「グローバル・エクセレンス」の実現に向け、大学の舵をどう取るか。神戸大学生に何を期待するか。新学長に聞きます。

(インタビュー・構成 神戸大学広報室)

学長就任後の感想からお聞きします。

予想以上に忙しい、というのが実感ですね。毎日のスケジュールにはほとんど余裕がなく、会議などで非常にタイトです。内容はそれぞれに重要なので、充実感はすごありますが。

企業では、それぞれの担当がかなりの権限をもっており、社長がすべてを決定しなければならないということはありません。大学の場合



は、神戸大学に限らないと思います。ほとんどすべての案件が学長決裁というような取り決めになっています。私はこれを、少しずつ変えていこうと思っています。案件のグレードを見直し、これは副学長が決済する、これは局長ができる案件である、といったように。権限を分散させて、皆さんで大学を運営していけるような体制に整えたいですね。

その上で、学長が決定できることは即断即決でやります。そのための情報というか判断材料は、日ごろから仕入れているつもりです。理事とは定期的に懇談会をやっていますが、廊下での立ち話といったことも、結構多い。それに、いろんな方が「ちょっとお話を」と、学長室に入って来られます。良いことか悪いことか分かりませんが、非常に入りやすい雰囲気があるのかなと、感じています。

どのようにリーダーシップを取りますか。

神戸大学の目標は、世界でトップクラスの教育研究大学になることです。それを実現させるために、学長は何をすべきかと、いつも考えています。

学長や理事に、目標に至るいい案があるとしても、実現するには教職員を含めた組織の力が不可欠です。それも、明るくてアクティブな組織です。そのために私は、教職員との対話を一番に重視したい。先ほど言いましたように、忙殺される中で時間を作る、そして楽しみながら話が出る、そういう環境を整えていければと思います。

神戸大学が大きく動き出したように見えます。

全国的にみると、神戸大学は非常に微妙な位置にあると思っています。様々な指標が、旧帝大に次いで9位とか、10位とか。もはや、「定位置」になっているのかもしれませんが。これで、いいのでしょうか。「定位置」に安住していると、そう遠くない時期に転げ落ちてしまわないかと、私は危惧しています。

神戸大学には、大きな可能性が秘められています。その可能性を現実化するための具体策としてはまず、8月初めに発表した神戸・ポートアイランドへの進出があります。ここに統合研究拠点を整備して全学の先端融合研究を展開するとともに、他の研究機関や大学、産業界と連携し、産学官連携の拠点にする、という計画です。近くには神戸医療産業都市構想をベースにしたクラスターがあって様々な産業が集積しており、お隣は次世代のスーパーコンピューターという、願ってもない立地です。知の集積の中核に、神戸大学が位置することになるのです。

神戸大学の大きな特徴として、国際的な大学であることを自負し、国際化の拠点となる大学を目標にしていることが挙げられます。単に留学生が多いだけでなく、国際性豊かな教員の充実が本当の国際化ではないでしょうか。教員が海外に実際に行き、様々な人たちに出会い多様な文化に接して、そこから得るものを学生に伝えてもらいたい。そこで、私の任期4年間のうちに、年間15名、計60名の若手研究者を1年間程度留学させる制度を発足させたいばかりです。

化学がご専門ですね。

京都で生まれ育ち、高校も京都の府立高校です。大学受験で1年浪人したのですが、その時に通った予備校の化学の先生が、とても好きになりました。教え方が非常に上手な方でしたが、人間的にも魅力のある熱血漢で、質問に行くと一生懸命教えてくれました。単純ではありますが、その先生の影響を受けて、京大工学部の化学工学科を受けたのです。



福田学長に聞く

理事の皆さんに「20歳のころ」をお聞きしています(次ページ参照)。学長は？

ちょうど京大紛争の真っただ中でした。3年生に上がり専攻分野に行くころに、全学ストライキが始まって、授業がなくなったのです。そこからいうと、私の学生時代というのは遊び呆けてましたね。卒業できる程度の勉強はしましたが、勉強というレベルのしろものではありません。

学園紛争については、考えるところがたくさんありました。入学したころの私にとって大学は、知を創造するとか追究するとか、非



常に神聖な場所でした。そのイメージが覆され、教師の権威も失墜してしまいました。それで大学院に進まず、就職をしたわけです。

勉強していなかったものですから、会社では苦労しました。しかし、今では面白いことに、それがプラスになったと感じています。

生物の嫌いな私が、微生物を扱う研究所に配属されました。勉強しようにも当時は役に立つ文献がなく、結局自分で研究して、となりました。それが今も続くライフワークの「バイオテクノロジー」です。大学院に進んでいたら、その後もずっと大学院時代の分野に固執して、新しい分野に挑戦しなかったでしょう。自分で考えることの面白さに気づいたきっかけですね。

なぜ大学教員に転身したのでしょうか。

英国への留学から帰ってきたころから、新しい研究をやってみたい、そして次世代の研究者を育てないと、思うようになりました。そこへ、神戸大学の工学部にバイオエンジニアリングの研究室を作り、教授、助教授、助手のポストを設けるので来てくれなかとお誘いを受け、自分の研究も続けられるということで、転身を決断したのです。

福田 秀樹(ふくだ ひでき)

- 1947年生まれ
- 1970年 京都大学工学部卒業、鐘淵化学工業入社
- 1984年 英国マンチェスター工科大学客員研究員
- 1992年 同社総合研究所研究企画部部長兼生産技術研究所主席研究員
- 1994年 神戸大学工学部教授
- 2003年 大学院自然科学研究科長
- 2007年 自然科学系先端融合研究環長

留学時代の思い出は。

留学先はマンチェスターですが、少し離れた西隣がリバプールでした。ビートルズ発祥の地ですよ。足跡を求めて、3度訪れました。どちらかと言うと、さびれた田舎の港町で、よくあんな天才的な音楽が生まれたなと感慨がありました。

私たちの時代は、やはりビートルズです。今もよく聞きますが、もうすっかり、スタンダードになりましたね。娘がクラシックのピアノをやりますが、ビートルズの話になると意見が一致して、盛り上がります。単なるグループサウンドではなく、一人ひとりが音楽家で、個性的で、挑戦的で、それでいて集まるとハーモニーに満たされる。あれがプロジェクトです。本当のプロジェクトは、皆さんが優れた個性を持っていることだと思いますね。研究も同じことではないでしょうか。

最後に神戸大学生へのメッセージを。

神戸大学の学生は一般的に、ジェントルマン風です。就職先からの評価も高く、まじめで優秀であるという声を頂きます。それだけではなく、個性として、野性味と言いますか、アグレッシブに挑戦する、そんな学生に育ってほしいですね。

思い切ってチャレンジしないと、大きな成果は得られないと思います。うまくいなくてもそれを失敗と思わず、原因はなにかと疑問を持って、そこから革新的な成果を得てほしい。絶えず前向きにとらえる、そうすると表面上は失敗だとしても、成功への道につながると私は確信しています。

(研究や教育、産学官民連携で神戸大学が目指す方向については、福田学長自身が広報誌「神戸大学最前線」12号に書いています)



福田秀樹・新学長の就任に伴い、新しい理事が決まりました。国立大学法人法や神戸大学学則に基づき、学長が7人を任命しました。新任が6人、再任が1人で、任期はいずれも2009年4月1日から2年間です。

新理事は こんな人

20歳のころ

何をし、何を考え、どんな日々を送っていたか。自らの未来を、どう描いていたか。7人の理事のみなさんに、「20歳のころ」を振り返ってもらいました。

特集
新学長・新理事



田中 康秀

担当：教育・同窓会・附属学校

私が神戸大学に入学したころはちょうど学園紛争の真っ最中で、入学して約半年間は六甲台学舎が封鎖されていたため、郷里での自宅待機という経験もしました。そのような世相を反映してか、学生一人一人がそれぞれに世の中の動きに関心があり、学生同士でいろいろなことを議論していました。私はそれほど積極的な性格ではなかったのですが、20歳のころ、ある講義のときにたまたま隣に座ることになった友人に誘われて、国際問題研究会という当時でも歴史のあるクラブに入会しました。ここでの学生生活は私に少なからぬ影響を与えたように思います。というのは、そのクラブには学園紛争を学内から見てきた議論好きの先輩たちが多くおり、彼らや同期と一緒に活動する中で、社会科学という学問にとっても興味が出てきたからです。学生の皆さんには、是非、世の中のいろいろなことを議論できる友人をたくさん持ってほしいと思います。

略歴：1949年生まれ。75年3月、神戸大学大学院経済学研究科修士課程修了。同年4月、同大経済学部助手。78年4月、同講師。82年4月、同助教。90年7月、同教授。2006年11月、同大大学院経済学研究科長、経済学部長。



武田 廣

担当：研究・情報管理

大学2年生でした。ちょうど、教養学部から専門課程への振り分けがあり、第一志望の理学部物理学科への進学が決まりほっとしていました。しかし、今振り返ってみると、なぜ物理を選んだのかは、そんなに強い気持ちはなかったように思います。結果的には、一生を左右した選択だったわけですが、何となく面白そうだとか（結構、こういうのが大事なかも）、世間的には一番難関だからとかという見栄もあったかと思っています。

阿久悠氏作詞の「青春時代」に、「青春時代が夢なんて 後からほのほの思うもの、青春時代の真ん中は 道に迷っているばかり」というサビの部分がありますが、全くその通りだと思います。迷いながらも選択をして、その責任を取れば、立派な青春だと思います。

略歴：1949年生まれ。77年3月、東京大学大学院理学系研究科物理学専門課程博士課程単位修得退学。78年1月、同大理学部助手。86年5月、同大理学部附属素粒子物理国際センター助教。89年4月、神戸大学理学部教授。2003年4月、同大理学部長。07年4月、同大附属図書館長。



土井 亨

担当：財務・基金

大学に入学して、親に「無理に勉強しなくてよいから、自分の好きなことを思い切りすること、良い友人を出来る限り多く作ること」と励まされました。そのこともあり、野球部に入部。弱いチームでしたが楽しく練習に打ち込みました。勉強は「近代経済学」に魅力を感じ、サミュエルソンやシュンペーターなどに親しみました。嫌いな科目はほとんど勉強もせず、「可」ストレスの点数ばかりで終わりました。一番大切な大学時代の友人は、それこそ一生の付き合いとなり、多くの方々と今でも「飲み会」「ゴルフコンペ」「旅行」と何かにつけて交際が続き、私の大切な財産です。皆さんも学生時代は悔いが残らないように、自分の好きなことを、好きな友人と、思う存分やりきってください。

略歴：1939年生まれ。63年3月、和歌山大学経済学部卒業。同年4月、松下電器産業株式会社入社。86年4月、アメリカ松下電器産業株式会社出向 副社長。90年4月、松下電器産業経営企画室長。2001年6月、松下興産株式会社 取締役社長。06年2月、神戸大学特別顧問。07年2月、同大理事。





横野 浩一

担当：病院

昭和42年当時、県立から国立へ移管して間もない神戸大学医学部は、2年間の六甲台での教養課程と、その後の4年間の楠町での専門課程から構成されていた。私の20歳のころは、ちょうどこの六甲台から楠町への移行期に当たる。今と変わらぬ厳しい受験戦争を終えて迎えた六甲台での教養生活は、今から思えば当時流行ったグループサウンズの旋律に乗って、最も自由闊達に青春を謳歌できた2年間だった。一方、楠町に移って医学専門課程で開始された解剖学の実習は、その少しふやけた精神を尖鋭にするに十分のものであり、80名の同期生と絶えず顔を突き合わせて過ごした20歳のこのころは、最も濃密な学生時代でもあった。ただ将来への不安や悩みはあまりなく、むしろ日々新たな知識が得られる毎日が楽しかったことを記憶している。

略歴:1947年生まれ。72年3月、神戸大学医学部医学科卒業。81年3月、Mount Zion Hospital and Medical Center研究員。81年7月、神戸大学医学部附属病院助手。92年12月、同講師。96年1月、同部助教授。97年5月、同部教授。2002年10月、同部附属病院副院長。08年4月、医学研究科内科学講座教授。



石田 廣史

担当：入試・学生生活・広報

20歳のころを振り返ると、これと言って自慢できるものはあまりなく、正直のところ恥ずかしささえ感じます。そのころ、多くの大学は正に大学紛争で全学ストライキ、全学閉鎖の真只中でした。多くの学生は熱にうなされたように、夜を徹して大学と社会改革についての議論に熱申し、大学・社会改革を旗印に大学闘争に突入して行きました。私は全学ストライキや全学集会などに参加しながらも、講義がないのを良い事にクラブ活動に専念し、毎日汗を流すノンポリ学生の一人でありました。そのような中でも多くの学生と同様に、未来に明るい希望を持ち、今、自分に何が出来、何をすべきなのか、そして何をしたいのかを、自分の実力の程も考えもせず議論していました。

略歴:1949年生まれ。72年9月、神戸商船大学商船学部航海学科卒業。同年10月、同部助手。79年12月、オレゴン州立大学大学院海洋学研究所修士課程修了。80年10月、神戸商船大学商船学部助教授。95年4月、同部教授。2003年10月、神戸大学海事科学部教授。07年10月、海事科学研究科長、海事科学部長。



中村 千春

担当：国際交流・産学連携・地域連携・社会連携

20歳のころを振り返ると、鬱勃とした思いに動かされて彷徨っていた自分を思い出します。山登りが好きな私は、その年の1ヶ月余り、晩秋から初冬の上高地、梓川、穂高連峰をひとり歩き回りました。大検合格の通知が届いたのは年の瀬でした。その後の2年間は、友人達が大学紛争に情熱を傾けているとき、私はひたすら受験勉強に明け暮れました。参考になる生き方ではありません。「心をひとつにして、諦めずにやればなんとかなる」と思っていました。青春は、未熟、挫折と希望、可能性が同居した疾風怒濤の時代です。あらゆる知識を貪欲に詰め込んでください。自らを一途に信じて前進してください。Make yourself someone who can make someone else happy.

略歴:1947年生まれ。79年5月、米国コロラド州立大学大学院農学研究科博士課程修了。同年9月、カナダ農務省オタワ中央研究所客員研究員。81年4月、神戸大学農学部助手。89年6月、同助教授。96年4月、同教授。2005年2月、同農学部長。09年2月、同大連携創造本部長。



正司 健一

担当：総務・企画・評価・男女共同参画

神戸生まれ神戸育ちの小生は、今と同様、神戸にいた。中高校時代から、都市交通政策・交通計画の議論に興味を持っており、交通論講座で勉強することをめざして神戸大学経営学部に入學していた。そして希望通り、秋山一郎先生のゼミに入り、本格的な交通研究の第一歩を歩み出したのが、ちょうど20歳の時のことだった。もともと、そのまま大学に残り、神戸大学での生活を35年以上続けることになるとは、その時は想像だにしていなかったが。当時小生にはもう一つ所属していた「ガクブ」がある。軽音楽部である。ビッグバンドでサクスを吹いていたのだが、残念ながらこちらの方は長続きせず、今は聞く人として学生たちを応援する側に回っている。

略歴:1955年生まれ。79年3月、神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了。同年4月、神戸大学経営学部助手。82年4月、同部講師。86年4月、同部助教授。98年4月、同部教授。2006年4月、大学院経営学研究科長、経営学部長。





大震災から 始まった

都市安全研究センター

友が亡くなった下宿跡で祈る留学生＝神戸市灘区六甲町で

1995年1月17日未明に起きた阪神・淡路大震災は、6,400名を越える尊い人命を失う大惨事となりました。神戸大学は、被災地に位置する総合的な国立大学として、その原因を明らかにするとともに、被害の拡大を防止するための対策を提案し、復興計画の立案助言を行うことを、大学の責務であると考えました。こうして、「安全かつ快適な都市の理念を構築し、それを実現するための手法やシステムについて総合的に教育研究を行い、活力ある都市を創出することに寄与する」ことを目的として、震災の1年後、1996年5月11日に都市安全研究センターが設立されました。

(有木康雄)

教訓に学ぶ

設立以来、当センターでは、阪神・淡路大震災のみならず、世界で発生した多くの被災事例から、災害の教訓と減災策を学際的・総合的に研究するとともに、神戸大学が有する安全な都市作りに関する英知を集約し、得られた研究成果を広く国内・国際社会に発信してきました。また、現在、自然災害に強い安全な都市づくりだけでなく、事故や感染症など都市の安全を脅かす事象に関しても、理学、工学、医学、情報科学、社会科学などの分野から、安全で快適な都市づくりを達成するための研究を行っています。これらの知識を普遍化し、後世に伝えることも、当センターの責務であると考えています。

都市安全研究センターは、阪神・淡路大震災から次のような教訓を学びました。都市という複雑な構造が、災害に対して強くなるためには、道路・鉄道・電気・水道といったインフラ施設(ハードウェア)の耐震性向上だけでは不十分です。消防・病院等

の緊急救命・救助・消火等の緊急対応システムの整備、さらには住民・産業・行政による都市の防災および中・長期の復興計画を事前に構築し、災害時にスムーズに実施できる体制(ソフトウェア)を持つことが重要です。加えて、一般市民・産業・行政関係者を含む都市の構成メンバーに対して、継続的に防災教育を行ない(ヒューマンウェア)、災害にもめげない人間力を養うことも必要です。

災害が発生する前に、ハードウェアの耐震性を向上させ、ソフトウェアにより拡大防止の社会システムを構築し、ヒューマンウェアにより来るべき被災に備える総合的な事前対応策を施すことを、防災・減災の考えとします。当センターでは、人の命と暮らしを守り、地域を守り、安全で快適な社会を構築するために、防災と減災の両方の観点から研究を進めています。

災害の過程に応じて

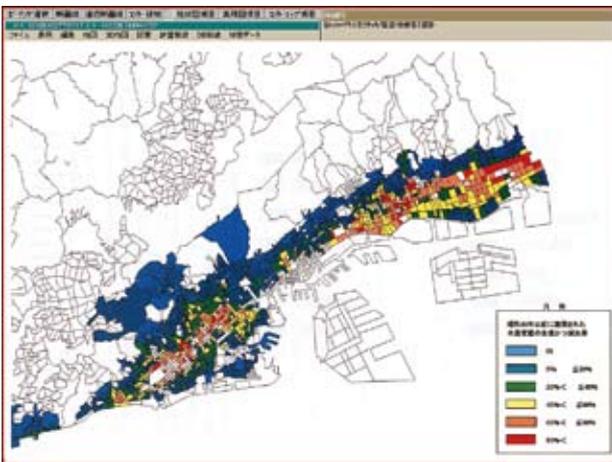
複雑な都市における災害に対しては、災害発生の前後で時系列的に備えるべき物を考えておく必要があります。

まず、災害発生前に行なうべきものとして、工学や理学等の自然科学的技術が中心となり、災害による被害想定などを行なうリスク・アセスメントです。次に、災害発生後に行なうものとして、行政や医療機関が中心となり、社会科学的・生命科学的技術을駆使して緊急対応や復興施策などを行なうリスク・マネジメントです。最後は、災害の発生前・発生前・発生後にわたって、情報学・人文的技術により、災害情報の共有や防災教育などを行なうリスク・コミュニケーションです。

研究も教育も

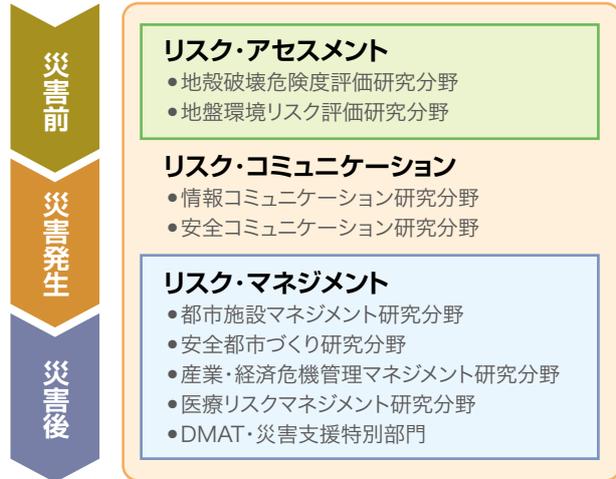
都市安全研究センターでは、17名の教員が研究を進めていますが、その中で2つの研究をご紹介します。1つは、「地震断層破壊の物理過程の研究」で、地震断層が破壊される物理現象を解明し、大地震による強い揺れを高精度に予測するものです。この研究では、地震学の分野に応用・実験力学的な研究手段を取り入れたことにより、新しい断層破壊理論の構築に成功しました。この研究を遂行している上西幸司准教授は、平成21年度科学技術分野文部科学大臣表彰で若手科学者賞を受賞しました。

2つ目は、「高密度地盤情報データベース：神戸JIBANKUN」です。平成7年に兵庫県南部地震が発生した際、神戸市域において被災区域が帯状に分布する「震災の帯」が生まれました。この原因を明らかにするため、神戸市が進める「神戸JIBANKUN」の構築に協力してきました。8000本のボーリングデータをもとに、地理情報システムを活用して構築したデータベースで、2次元的な平面情報と、地中の3次元断面情報を、家屋建物情報など多種類の情報と共に表示することができます。



「神戸JIBANKUN」で建築構造物被害分布図を呼び出した画面。被害の大きいことを示す赤色が「震災の帯」を示している

■ 都市安全研究センターの組織



都市安全研究センターでは、これらの研究成果をベースに、震災教育を行なっています。阪神・淡路大震災から10年以上の歳月が経過すると、震災時の危機意識や復興への切実さを肌で感じる人々が減少し、震災経験の風化が始まりました。このため、平成17年～平成20年の4年間、文部科学省の「現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム」の制度の下に、「震災教育システムの開発と普及」プロジェクトを実施しました。この中で、総合教養科目「阪神・淡路大震災」の講義を行っています。

■ 総合教養科目「阪神・淡路大震災」(2009年度)

前期	後期
<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション／住宅被害 2 人的被害 3 理学的な視点から兵庫県南部地震をとらえる① 4 地盤(宅地、擁壁、山地斜面) 5 理学的な視点から兵庫県南部地震をとらえる② 6 ライフライン、交通網 7 産業被害 8 救助と消火 9 避難経路と避難所分布、避難所運営 10 災害報道 11 ボランティアと被災者支援 12 被災者支援の法的、行政的支援と問題点 13 復興都市計画の展開(歴史的経過を含む) 14 減災へのパラダイムシフト 	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション／地震とは 2 阪神淡路大震災が社会にもたらしたもの 3 防災福祉コミュニティの現状と行政支援 4 防災・減災の国際活動 5 災害情報システム 6 海からの救援 7 災害看護 8 心のケア、PTSD・・・ 9 災害医療と公衆衛生 10 社会基盤と住宅の耐震強化 11 災害弱者への救援 12 文化活動と震災 13 経済学的視点から見た阪神淡路大震災 14 災害資料の保存と歴史資産を活用した文化形成

現場に学び貢献する

命を助ける

厚生労働省は2005年、大規模災害に対応する緊急医療チーム、日本DMAT(Disaster Medical Assistance Team)を創設し、本学には3チームが編成されました。私は2005年のJR福知山線列車脱線事故に出動したほか、「日本DMAT」を基本としたインドネシア・ジャワ島中部地震救援に、都市安全研究センターの工学・理学系メンバーと共に派遣されています。

JR福知山線列車脱線事故は、災害医学を専門とする私にとっても衝撃的でした。この事故は、わが国で「トリアージ」が大規模に行われた最初の事例です。トリアージとは、災害時に激増する傷病者を分散させること、「本来ならば避けることのできたはずの死」を防ぐために、切迫する傷病者と緊急性の低い傷病者に選別することです。事故車両内で一次トリアージされ、救護テントに運ばれてきた方の二次トリアージと治療を担当しました。

現場はあまりにも生々しいものでした。自分が日常通勤する際に隣り合って座っているようなスーツ姿のサラリーマンが、そのまま担架に載せられて遺体安置場に運ばれて行く。事故車両の中は、サンダルやハイヒールが散乱していました。身近な「生活感」が、現場にあふれている異常さ。事故や災害の現場が医療従事者の生活に身近であればあるほど、医療従事者は精神的に不安定な状況に置かれやすくなります。私自身は、一定の復興がなされた事故や災害の現場を再び訪れることで、そのような精神的な負荷をいくぶんかでも軽くするようにしてきました。このような方法は、医療従事者がそれぞれ自分なりに編み出していくものなのでしょう。



DMATの研修に参加する筆者(右)

海外緊急医療援助で重要なことは、現地の文化や生活水準、衛生状況にあった治療がなによりだということです。医療先進国の治療方法がかえってあだになるということもあります。パキスタン地震(2005年)の際、ある欧米のチームが骨折した被災者の骨にピンを打ち込む治療を施しましたが、ピンの挿入箇所から化膿し、足を逆に切り落とすことになってしまった例を目撃しました。現地の衛生状況では、むしろギブスによる固定がふさわしかったといえます。我々は何を求められているのか、絶えず振り返りながら現場に入ることが何よりも大切なのです。

(中尾博之)



DMATの広域災害訓練

四川地震の調査

2008年5月12日、中国四川省汶川県を震源としてマグニチュード8の大地震が発生し、8万人を超える人命が失われました。都市安全研究センターは地震直後から、緊急医療研究チームが人命救援を目的に、救援隊の派遣を文部科学省を通して中国側に交渉しましたが、最終的には実現しませんでした。一方、発生して1か月ほどたってから、数多くの地震被害調査活動を開始しました。筆者・学生を含めたチームは四川省での日系企業の地震災害調査を主目的に、6月14日から4日間、現地調査を行いました。

大学が災害調査チームを派遣するのは、物理的な被災原因の科学技術的解明もありますが、被災地の地域社会が迅速により良く復興するための仕組みを研究することも重要です。そのためには、自然科学的思考と社会学的思考の両方が重要になります。中国の政治、法律、経済の制度は日本とは大きく異なり問題点も有りますが、地域社会に生きる人の考え方・幸せは、世界共通であることが多いのです。国の違いを超えて発生する地震や洪水に対し、制度の異なる社会で人々が安全で幸せな生活を確保するすべを研究することは非常に重要であり、四川地震の調査・復興支援の意義も高くなります。

(田中泰雄)

■ 災害現地調査年表

- 1995年 1月 阪神・淡路大震災発生。
- 1996年 5月 都市安全研究センター設立。
- 1999年 8月 トルコ・コジャエリ地震発生。3回の調査隊を派遣。
9月 台湾集集地震発生。医学部を含めて4回の調査隊を派遣。
- 2000年 9月 東海豪雨災害発生。翌年1月に災害現地調査。
10月 鳥取県西部地震発生。災害現地調査。
- 2001年 1月 エルサルバドル地震。7月に災害現地調査。
3月 芸予地震発生。5月に災害現地調査。
- 2003年 5月 三陸南地震発生。災害現地調査。
7月 九州豪雨災害発生。9月に災害現地調査。
9月 2003年十勝沖地震発生。10月に災害現地調査。
12月 イラン・バム地震発生。翌年1月、災害現地調査。
- 2004年 7月 新潟・福島・福井豪雨災害発生。
10月 台風23号災害発生。10,11月に災害現地調査。
10月 新潟中越地震発生。10,11月に災害現地調査。
12月 スマトラ沖地震・津波災害発生。
- 2005年 1月 スマトラ沖地震・津波災害支援・現地調査を実施。この年、医学部を含めて5次にわたる調査隊をインドネシア、マレーシア、インド、スリランカに派遣。
- 2006年 5月 インドネシア・ジャワ島中部地震発生。災害現地調査。
- 2008年 5月 中国・汶川地震発生。災害現地調査。

JICAの研修

都市安全研究センターは、JICA兵庫国際センターと協力して2004年から、「都市地震災害軽減のための総合戦略」をテーマに、地震被害の可能性が高い発展途上国から毎年10名程度の研修生を受入れ、約2カ月の集団研修を実施してきました。2008年までの5年間で、合計54名の研修生を送り出しています。好評な実施評価を受けて2009年度からは、春・秋の年2回の研修を、同テーマで3年間継続することになりました。

この研修では、阪神・淡路大震災を都市災害の典型例として教材を構築し、リスク・アセスメント、リスク・マネジメント、リスク・コミュニケーションの研究成果を活用して、包括的かつ事前対応型の都市災害軽減の枠組みの重要性を、講義・施設見学を通じて研修しています。イラン、ヨルダン、アルジェリアなどの既研修生の中からは、国連関係の世界防災会議等で国を代表するリーダーとして活躍する人材が生まれています。

(田中泰雄)

用水確保の研究会

2003年において、安全な飲み水を供給されていない人口は約2億人であり、世界の約6分の1と言われていました。また、2025年には、世界の40%は水不足になるとも言われています。シンガポールでは、ニューウォーター計画として、生活排水を膜によって浄化し、飲料水に変える対策が既に取られています。

通常の生活では、飲料水に1人3ℓ、飲料や水洗トイレ・洗面に最低20ℓ、飲料用・水洗トイレ・洗面・風呂・シャワー・炊事に最低100ℓが必要といわれています。しかし、災害時の応急給水(タンク車)では、3日後に、1人10~20ℓしか供給できません。

大地震が起きても、配水管が壊れないよう耐震化を進めるだけでなく、行政・企業・地域住民がどのように連携して、平常時、緊急時の用水を確保するシステムを構築・運営していくべきか、都市安全研究センターでは、この問題について現在、研究を進めています。

(有木康雄)



大震災直後、水道が出ないため川で洗濯する女性=神戸市灘区の新都川で

ともに安全に生きるために

ユニバーサルコミュニケーション

近ごろは家庭生活や学校生活、社会生活で様々な機器の情報化が進み、情報機器が身の回りの生活環境に浸透しています。しかし、そのような機器は操作が複雑で、障がい者が使いこなすには困難である場合が多いのです。そこで都市安全研究センターでは、脳性麻痺構音障がい者（障がいのために発音が不自由である方）の様々な生活を豊かで便利なものにするため、コンピュータによる音声認識技術を活用した生活支援技術機器の研究を進めています。

脳性麻痺構音障がい者の中には、執筆活動や講演などを意欲的にこなし、社会で活躍しようとしている人もいます。しかし構音障がいのため、彼ら・彼女らの発話内容を健常者が聞き取ることが困難な場合があります。私たちが研究開発を進めている音声認識システムを用いれば、例えば構音障がい者自らの講演時に発話内容をスライドで見せる事も可能になり、聴講者の理解を助ける事が可能となります。

震災時には、障がい者などの弱者が被災する可能性が高くなります。障がい者が自らの声で自らの震災体験を語り続けることを手助けすることにより、阪神・淡路大震災の教訓を継承していきたいと考えています。

(滝口哲也)

感染症対策

ある日あるとき、街で多くの方が、熱を出して咳をするようになりました。たくさんの病人が出て、多くの人が病院に駆け込みます。救急センターは患者でいっぱいです。入院患者も増え、その中には集中治療室(ICU)での治療を必要とする人もいます。街は恐怖でいっぱいです。

これが、感染症のアウトブレイクです。感染症は古くて過ぎ去った問題ととらえられることもありますが、そんなことはありません。現在も、そして将来においても感染症は我々にとって脅威であり続けるのです。

医療リスクマネジメント分野では、とくに感染症を対象とした研究を医学研究科とタイアップして行っています。我々の生活を脅かす新しい感染症、新興・再興感染症というのが主なターゲットです。例えば、最近話題になったところではSARS(重症急性呼吸器症候群)や新型インフルエンザも新興感染症に分類されます。

感染症対策で必要なのは、正しい診断、正しい治療です。上手な診断、上手な抗菌薬の使い方を模索するのも、我々の大切なミッションです。予防接種など、被害を未然に防ぐ予防策を講じることも大切です。感染症にまつわる領域は多岐にわたるのです。

(岩田健太郎・大路 剛)

市民への発信

起こるべくして起こる災害の被害を最小化する(減災)ためには、なによりも市民の日常の備えが大切です。こうした観点から、市民に定着し共有された防災や減災のための考え方や知識・技能といった文化、すなわち「災害文化」の重要性が指摘されています。

文化の次元にまで防災・減災への人々の構えが根づくことを願って、センターでは神戸市、報道機関との協働によるマルチメディア防災教材「ビジュアル版 幸せ運ぼう」を制作し、全国の教育機関に配布しました。教材には阪神・淡路大震災関連ニュース映像・新聞記事、教材、指導案を収録してあります。教材の映像は、各地の防災イベントでも使用されています。ボランティアの豚汁の炊き出しに、涙しながら助け合いの大切さと感謝を述べる被災者の映像を、被災者だっと思われの方々がじっと見ている光景に出会います。震災を伝え続けることの重要性を、意識する瞬間でもあります。



防災教材「ビジュアル版 幸せ運ぼう」

ほかにも次のような取り組みをセンターでは実施しています。

オープンセンター

講演会や各種シミュレーションのデモ、参加型実験などを、見・聞・触型イベントとして実施しています。

オープンゼミナール

防災や減災に関する最新の研究成果を、学生や市民の方々とともに気軽に質疑を行いながら運営するゼミスタイルの研究発表会を、130回に渡って実施しています。

震災コースウェア

震災関連講義の講義映像、教材をネット公開しています。

(林 大造)



子どもたちにも分かりやすく災害や防災の知識を伝えるオープンセンター＝2008年11月15日



能登半島地震被災地で、被災した人に足湯をする神戸大学生=2009年5月5日

2007年3月25日発生の能登半島地震被災地の仮設住宅で、住民の方と交流する学生たち

学生ボランティア支援

阪神・淡路大震災では、1年間で全国からのべ137万人のボランティアが駆け付け、この年は「ボランティア元年」とも呼ばれました。その多くが、大学生・高校生などの若者でした。



大震災でできた被災者のテント村を訪問する神戸大学生=1995年

その後、国内外で大きな事故や災害が発生すると、ボランティアが全国から駆け付け、活動するようになりました。また、神戸・阪神間では、こうした震災ボランティアの活動がきっかけとなって、日常的に高齢者の見守り活動や、障がい者の介助、野宿者（ホームレス）支援活動などが継続しています。

都市安全研究センターでは、こうした学生や市民による自発的な活動が、災害時のみならず、平時においても都市の安全を守るためには不可欠だと考えています。同時に、これらの市民活動に学生が参加することが重要だと考え、「学生ボランティア支援室」を設けて学生の活動を支援しています。

神戸大学の学生は、様々な分野でユニークな活動を展開しています。例えば「足湯」。最近では、台風9号による被害が大きかった兵庫県佐用町で実施されました。避難所や仮設住宅にいる被災者に、たらいに張ったお湯の中に足をつけてもらって、学生が10分ほど軽く手や腕をさすります。そして、この間に、学生はいろいろな話を聞きます。「慣れない長靴を履いて、ずっと片づけをしているので、足がむくんでスリ傷が出来てしまった」

「飲食店をしていたが1階は2m近く浸水し使えない。今は2階で寝泊まりしている。ショックで声が出なくなった」「避難所にいるが、眠れない。流された家のことばかり考えて起きてしまう。寝られさえすれば疲れも取れるのに」

災害を直接体験したことのない学生も、こうした被災者のつぶやきを聞いて、その大変さに気付かされ、被災の経験を追体験することになります。阪神・淡路大震災から生まれた都市安全研究センターにとって、こうした学生の活動を支援することは、教育としても、社会貢献としても、非常に重要だと考えています。

(藤室玲治)



兵庫県佐用町の水害家屋で床修理を手伝う神戸大学生=2009年8月

この特集は都市安全研究センターの次の方が担当しました(執筆順)

- 有木康雄・センター長、教授(情報コミュニケーション研究分野)
- 中尾博之・准教授(DMAT・災害支援特別部門)
- 田中泰雄・教授(都市施設マネジメント研究分野)
- 滝口哲也・准教授(情報コミュニケーション研究分野)
- 岩田健太郎・教授(医療リスクマネジメント研究分野)
- 大路剛・助教(医療リスクマネジメント研究分野)
- 林大造・講師(学生ボランティア支援室)
- 藤室玲治・学術推進研究員(学生ボランティア支援室)

神戸大学と留学生

国際交流推進本部副本部長 瀬口 郁子

神戸は古くから港を通じて世界に開かれた都市であり、国際交流を常として発展してきました。神戸大学もこのような立地条件と社会環境の下、早くから国際学術交流と留学生交流を大学運営の重点事項として推進してきました。

卒業後も視野に入れた支援

本学では、「知の創造」「知の継承と環流」「知の共有と国際協力」「人材の交流による知的国際貢献」及び「世界の潮流を自ら生み出す人材の養成」を国際交流の基本理念として、グローバルな活動を支援しています。近年、経済主導型受入れ理念が世界に浸透する中であっても、本学では優秀な人材を受入れて育成することを重視して、入学前から卒業後までも視野に入れた教育研究活動を継続しています。

2009年5月現在、神戸大学は71の国・地域から1043名の留学生を受入れ、その多くはアジア地域出身です。また、留学生全体の84%が大学院に所属しており、院生の18%が海外からの学生とも言えます。海外の協定大学は174校にのぼり、双方方向の学術研究・学生交流が、ますます盛んになっています。多様な専門知識をもつ国際的な知的人材が共に学び研究し、そして生活する光景も、キャンパスの内外で日常的に見られます。

最初の留学生はタイから

そのような学風を産み出した源流を、本学の留学生受入れ史で概観してみましょう。まず、本学で学んだ最初の留学生はタイ出身のプラバン・ヘータクン氏で、戦後復興途上の1953年経営学部入学、卒業後は母国に戻り、タイヤクルト株式会社の会長として、78歳の現在も現役でご活躍中です。

1977年には学内措置で「国際交流センター」を組織し、全学的な協力体制の下、研究者交流を促進すると共に、留学生を積極的に受入れる環境づくりに取り組みました。また、1979年には、医学研究科においても附属「医学研究国際交流センター」が設置され、アジアにおける医学分野の教育研究拠点として、現在に至るまで学術面での国際貢献に寄与しています。1983年には文部省が「留学生受入れ10万人」計画を発表、それを受けて、本学は全国に先駆けて「兵庫地域留学生交流推進会議」を主導し、地域と連携協力して留学生を受入れる仕組みを発足させました。



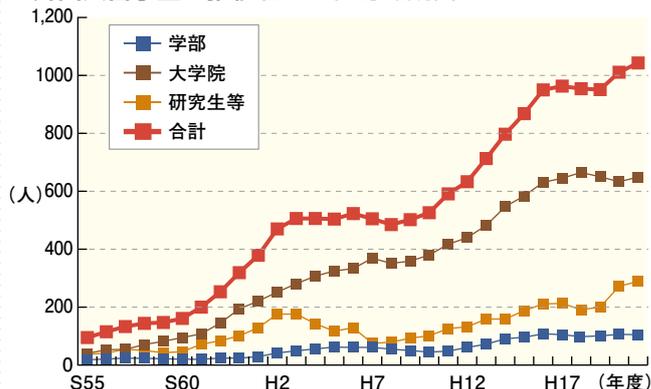
最初の留学生プラバン・ヘータクンさんと筆者の瀬口郁子副本部長

阪神・淡路大震災を乗り越えて

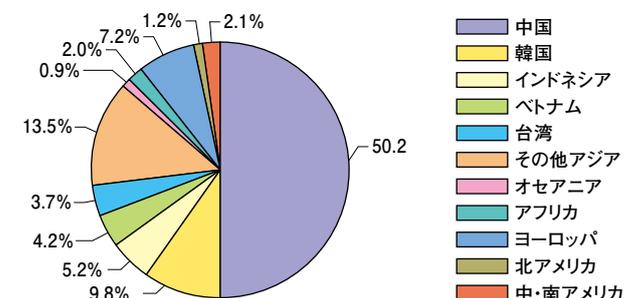
その後、1993年に、留学生に対する日本語・日本事情教育、修学上・生活上の指導助言、留学交流を推進し併せて関連する調査研究を行うことを主目的として「留学生センター」が省令設置され、留学生の受入れが本格的に整備され始めました。2年後、阪神・淡路大震災に見舞われ留学生をも含む多くの学生、教職員の尊い命が奪われるという不幸に遭遇しましたが、それを乗り越えて復興に取り組み、2001年には、七つの海につながるコンセプトで建てられた「神戸大学百年記念館」の中に、神大会館と並んで留学生センター新棟が実現しました。

一方、2005年には、長年国際的な連携及び交流活動にかかわる企画・実施などを担ってきた国際交流推進室を発展的に改組して「国際交流推進本部」を開所し、戦略的で国際的な活動をさらに推進しています。そしてまた、「神戸大学ビジョン2015」もグローバル・エクセルシブの実現に挑戦する時代を迎え、全学的にさらなるネットワークを広げています。そのような学内環境の中、2008年には、文科省が政策として2020年を目処に「留学生受入れ30万人計画」を発表、本学も積極的に取り組む方向で制度の拡充を図っています。

外国人留学生の推移(2009年5月1日現在)



地域別留学生の割合(2009年5月1日現在)



世界に広がる同窓会

卒業留学生は国際的な知的人材であり、多様なスキルや情報をもつ一大資源で、まさに国を超えた貴重な宝です。卒業留学生のフォローアップ事業の原点は、その宝庫ともいべき人材と連携・協力し、互恵的な関係を築く仕組みを創ることです。



タイ神戸大学同窓会の発足総会。約60人が参加した=2009年8月22日、バンコクで

「人・知・還流」を旗印に

神戸大学の留学生同窓会は、1980年代後半から90年代にかけて韓国と台湾で自主的に組織されたのが始まりです。また、上海には、以前から神大卒というアイデンティティの下、国籍や専門は問わずに集まる同窓会のモデルケースも見られます。

その後、本学では、留学生センター新棟完成（百年記念館内）の2001年1月を新たな起点として、「Kobe University International Alumni-net」構想の下、データベースを整備し、2002年11月に、第1回「留学生ホームカミングデイ」を開催しました。2007年からは、神戸大学全体のホームカミングデイと同時開催で、今年で第6回目を迎えています。コンセプトは「人・知・還流」で、常に知的人材の循環を意識しています。

海外6カ国・地域に同窓会

2006年には、国内で活躍している卒業留学生を中心とする「国内留学生同窓会」も発足し、年に数回、関東と関西で開催しています。日本人OB/OGの方々も多く参加して年々活性化しています。同時に海外同窓会への働きかけも活発で、2006年には「中国神戸大学同窓会」、2008年には「ベトナム神戸大学同窓会」「インドネシア神戸大学同窓会」がそれぞれの地で発足し、今年バンコクで「タイ神戸大学同窓会」が発足しました。現在、海外の同窓会は、6カ国・地域になっています。

4千人を超える卒業留学生

「学友会」は11学部の連合体で、100余年にわたって蓄えた豊かな知的人材を擁し、現在、約140,000人が登録してい

ます。一方、卒業留学生について言えば、国・地域を超えた約4,000人の知的人材を国内外に送り出しています。国際的に人の移動が日常化するグローバル社会においては、海外の同窓会においても、国内の「留学生同窓会」と同様に、日本人卒業生と卒業留学生が、国籍・専門・年齢を超えて交流し、共に同窓会の活動を楽しむ光景が見られるようになってきています。今や、国籍ではなく学籍でつながる同窓会が各国・地域にでき、互いにネットワークの重要性を認識してつながりを求め始めています。

こうして築かれた卒業生のネットワークは、海外での教育・研究の拠点、グローバルなキャリアパスを形成する上にも、大きな役割を果たしていくことと期待されます。本学としても国内外の同窓会への持続的な支援、連携体制を強化して、留学生の卒業を起点に考える「人・知・還流」を神大ブランドの「知の循環」へと変換していくためのパラダイムシフトを、協働で実現していく必要があるでしょう。

(瀬口 郁子)



ベトナム神戸大学同窓会の発足総会。右は野上智行・前学長=2008年8月23日、ハノイで

国内就職希望者のために

留学生のための就職
ガイドブック「ようこそ! 就活」



2009年の「神戸大学留学生のためのグローバルキャリアセミナー」は、新型インフルエンザの影響で1カ月延期になり、6月24日、六甲ホールで開催されました。留学生約220名、日本人学生約40名が参加するという盛況ぶりでした。

このグローバルキャリアセミナーは、2007年9月の留学生ホームカミング日のメインイベントとして、日本の企業10社と卒業留学生の企業7社に参加してもらい、初めて開催されました。200名以上の現役留学生の参加があったため、改めて日本の企業への就職希望が多いことを認識し、2008年6月からは、セミナーだけを独立させて開催しています。

日本企業に就職したいと希望する留学生は年々増加しているものの、留学生ゆえに、日本特有の就職活動が理解できなかったり、企業の情報がつかめずに準備に遅れをとってしまったりすることが多いのが現状です。経済産業省が中心となって行っている就職支援「アジア人財資金構想」など、国の就職支援もありますが、一番身近な大学の構内で開催されることが、この「留学生のためのグローバルキャリアセミナー」の魅力でもあります。

今年は、この厳しい経済状況の中、イオン、伊藤忠商事、エイチ・アイ・エス、オリックスなど20社に参加していただきました。それぞれのブースで会社説明を行うと同時に、神戸市産業振興局企業誘致推進室には「起業の説明」と「行政書士によるビザ更新の説明」を、神戸学術事業会には卒業後も永久に使える「@kobe-u.com」の無料配布を、兵庫労働局には「インターン

シップの案内」をしていただくなど、留学生の就職のために様々な情報が提供されました。

3回目の今年は、二つの新しい試みを行いました。

一つは、日本の「就職活動」を理解するために、事前研修会(5月13日)を実施しました。エントリーシートの書き方や、面接の受け方をはじめ、就職活動についての講演や企業人事担当者とのパネルディスカッションなどを盛り込み、150名余りの留学生が参加しました。

もう一つは、「外国人留学生のための就職ガイドブック」の作成です。「ようこそ! 就活」と名付けたこのガイドブックはA4版、6ページで、職員が手作りました。日本の企業に就職するために知っておいてほしい基礎知識、就職活動のスケジュール、神戸大学のキャリアセンターなどが行っているガイダンスや各部署の就職担当窓口などを、日英対比で盛り込んでいます。

(留学生課長 井口 美津子)

2009年3月卒業・修了者の進路

2009年6月15日現在

	卒業 修了者数	進路別内訳						
		就職		進学			未定者	
		国内	海外	学内	学外	海外	帰国	未定
人文学研究科	35	4	1	19	0	0	2	9
国際文化学研究科	53	12	1	27	3	0	7	3
人間発達環境学研究科	28	7	2	11	1	0	0	7
法学研究科	14	0	2	5	0	1	5	1
経済学研究科	35	7	2	15	2	0	7	2
経営学研究科	32	8	2	11	0	0	6	5
医学系研究科	15	6	5	0	0	0	2	2
理学系研究科	7	1	0	5	1	0	0	0
工学系研究科	18	3	4	4	0	0	5	2
農学研究科	20	3	4	10	0	0	0	3
海事科学研究科	20	7	2	5	0	0	5	1
国際協力研究科	17	2	3	3	3	0	1	5
留学生センター	20	0	0	13	7	0	0	0
全学部	39	2	0	10	8	2	16	1
	353	62	28	138	25	3	56	41

※卒業修了者には研究生、短期交換留学生も含む。



2009年「留学生のためのグローバルキャリアセミナー」=百年記念館六甲ホールで

2009年3月卒業(修了)留学生《就職者の企業名》

部局	就職	企業名
文学部 人文学研究科	5	神戸大学人文学研究科(研究員)、ジオス、テル大連、京都精華大学人文学部(非常勤講師)、ケアフードサービス
国際文化学部 国際文化学研究科	14	サントリー、神戸国際語学院、㈱三交海産物、ECC外語学院、ビッグジョイ、TAU株式会社、NAVIBIRD、ベトナム政府投資企画庁、日本データビジョン、神戸大学連携創造本部研究員、国際文化学術推進研究員、国際文化学術研究科メディア文化研究センター学術推進研究員、株式会社明和、株式会社ノッテピアンカ
発達科学部 人間発達環境学研究科	9	クラーク国際専門学校(教師)、㈱神鋼エンジニアリング&メンテナンス、ゼンショー、もりや産業、ソニーソリューションズ、㈱くしのや、その他3名
法学部 法学研究科	3	法務省(韓国)、LEE INTERNATIONAL IP&LAW(韓国)、株式会社トクヤマ(日本)
経済学部 経済学研究科	9	みずほ情報総合、株式会社HIS、中信銀行、小浦石油株式会社、三井住友銀行、全日本空輸株式会社、アルプス電気株式会社、株式会社イオン、株式会社イレブンインターナショナル
経営学部 経営学研究科	10	Assumption University(タイ)、㈱電通西日本、㈱アビーム・コンサルティング、三井造船㈱、イオンリテール㈱2名、トランスコスモス㈱、パナソニック㈱(中国)、大阪教育学院、鳥取環境大学
医学部 医学研究科 保健学研究科	11	Faculty of Medicine Gadjah Mada University(インドネシア)2名、神戸大学4名、大阪大学歯学部、理化学研究所発生・再生総合研究センター、中国河北医科大学第二病院(中国)、Instituto Guatemalteco de Sagoridad Social(グアテマラ)、Pathology Research Division Department of Medical Reserch(ミャンマー)
理学部 理学研究科	1	神戸大学自然科学系先端融合研究環内海域環境教育研究センター(共同研究員)
工学部 工学研究科	7	Uni. Of Lampung(インドネシア)、McGill University(カナダ)、広島大学、University in Brazil(UTFPR).. GE横河メカニカルシステム、大東化成工業㈱、LG Electronics(韓国)
農学部 農学研究科	7	Sekisui's Water Division、株式会社医学生物学研究所、中国・内蒙古農業大学、ベトナム・ノンラム大学、エジプト・カイロ大学、味王(台湾)、神戸大学大学院農学研究科(技術補佐員)
海事科学部 海事科学研究科	9	情報技術開発株式会社、アルプス技研、株式会社中央電機計器製作所、三徳船舶株式会社、ジョイント株式会社、ベトナム海事大学、台湾清華大学、㈱クボタ、株式会社グローバルエージェント
国際協力研究科	5	University of California/USA、国際防災復興機構、東方貿易㈱、大韓民国京畿道庁、㈱神戸国際協力交流センター
計	90	

先輩からのメッセージ



柳 蕙善(ユ・ヘソン、韓国、2008年自然科学研究科博士前期課程修了、株式会社ノビア国際管理部)

2001年10月24日。母国を離れ、日本に留学することを肌で実感できたのは、空港で見送る母の涙を見た瞬間でした。そのときは、4年間の大学生活を終えたら帰国しようと思っていました。しかし、8年が過ぎようとする今、私は会社に勤めながらまだ日本で生活しています。

8年の間、生活環境は大きく変わり、世界のどこにいても、ネットさえ繋がれば無料でお互いの顔を見ながら話せる時代になりました。涙を見せていた母は、遠くに離れている気が全然しないと言います。生活基盤や職場がどの国にあろうが、妨げになるものは続々となくなっていく。まさに自分の夢と熱意だけで、全てが決められる時代です。ただ、実現のためには目標と行動が必要であることを忘れてはいけません。

大学を卒業した後、神戸大学大学院の自然科学研究科建築学専攻へ進みました。修了する頃、6年間勉強してきた建築から離れる重大な決心をしました。学問的には建築が好きでしたが、一生の職業としては世界を回る仕事、人々に変化を与え幸せを持たせる仕事に就きたかったのです。迷っていた時期に、留学生センターで募集要項が目に入りました。私は、化粧品

会社の海外事業部へ就職を決めました。

面接のとき「建築と化粧品には共通性があり、それはアートなんです」という台詞で内定を手にしたのですが、今は化粧品から一層大きな夢を見ています。それは、人の人生をデザインすることです。ある研究によると、初対面で印象を決定する要素は外見が55%、声38%、話の内容7%。つまり恋愛の場でも仕事の場でも、外見力は結果の半分以上を左右するということです。私は化粧品を通じて外見をプロデュースし、人々に活気と自信を提供することで、その人の人生がデザインできる夢に向かって走っています。



グローバルキャリアセミナーで後輩に説明する柳蕙善さん＝六甲ホールで



マリア・レイナルース・D・カルロス(フィリピン、2001年経済学研究科博士後期課程修了、龍谷大学国際文化学部准教授)

私は、神戸大学で過ごした13年間、多くのものを学ばせていただきました。まず、大学院経済学研究科で得た知識を生かし、日本の大学で教え、高齢社会日本の外国人労働者受け入れとその送り出し国への経済的な影響について研究しています。

しかし、これだけではありません。神戸大学での留学は、私に多文化共生社会の「付き合い方」を教えてくれた貴重な体験でした。留学生や教員として、日本人学生はどのように物事を考え、日本人の教授らはどのように学生に考える力をつけ、大学組織はどのように動いているのかを、観察しました。確かに、納得できないことや、愕然とする場面も多くありました。が、なるべくこれらにこだわらないで、日々、相手とどう「交渉」すれば自分にもプラスになるかを考えるようになりました。

神戸大学留学中、留学生会館の仲間たち(留学生や日本人チューター)は大きな支えでした。たとえば、週に一回程度、私たちは共同台所で各国の自慢料理に囲まれ、辛い勉強の相談や日本やその他の外国の「悪口言いたい放題大会」を自然に開くようになりました。そこで、日本だけでなく、母国の社会を「正しく知る」という多文化社会に生きるのに最も重要な要素を学びました。

私は、当時の留学で得た貴重な経験が、今の日本での生活や仕事に大いに役に立っていると思います。皆さんは勉強・研究に大変励んでいると思います。と同時に、神戸大学という恵まれた環境における日常の経験を大切にし、職業やこれからの生き方に大いに参考にしてください。



レ・ホン・ハイ(ベトナム、2007年経済学研究科博士前期課程修了、駐日ベトナム大使館)

経済学部そして経済学研究科と、6年間はあっという間に経ちましたが、神戸大学で過ごした月日は一生忘れられません。皆さんも大学出てから、私と同じように感じるでしょう。せっかく神戸大学に入れたのだから、勉強をがんばって、思う存分に貴重な時間を過ごして下さい。

神戸大学は留学生が多く、日本では国際性に富んだトップ大学の一つです。大学全体、特に留学生センターは同窓会を世

界に広げることに励んでいます。その中、2008年8月、ベトナム同窓会が発足しました。大学のネットワークのおかげで、日本国内でも海外でも、どこに行っても大学の友人と連絡が取れ、神戸大学出身の未知の人とも友達になれます。それは素晴らしいことであると思いませんか。皆さんもぜひ、神戸大学のネットワーク拡大に貢献してください。



学友会の新会長に高崎さん

新野幸次郎会長の任期満了に伴い、神戸大学学友会の新しい会長を選ぶ幹事会が2009年3月に開かれ、高崎正弘さん(凌霜会理事長)が第3代の会長に選出されました。任期は4月1日から2年間です。また、副会長には田中初一さん(KTC)と高田嘉英さん(紫陽会)、監査には前田盛さん(神緑会)と池上淑子さん(文窓会)が選ばれました。



神戸大学学友会 会長 高崎 正弘

学友会会長就任にあたって

少子化を背景に、大学間での優秀な学生の奪い合いが激しくなっているうえ、教育・研究の中身が、国の予算配分に反映されるようになってきています。このため各大学は、教育・研究の充実・高度化、学際的な取り組みの強化、卒業生のネットワークの活用など、より魅力ある大学創りに知恵を絞っています。

一方、神戸大学の同窓会活動においては、母校の総合大学としての成熟に伴い、学部別同窓会の連合体である学友会ベースの催しが全国各地で増えてきています。海外においても、全学共通の同窓会組織の組成が、大学の国際化戦略の一環として進められています。

このように、大学や同窓会をめぐる環境が大きく変化するなかで、学友会の組織は2007年4月の常任幹事会設置に続いて、

本年4月には事務局を同窓会組織から大学企画部社会連携課に移すなど、一層の整備が進められてきたところであります。

この体制整備と歩調を合わせて、活動内容の一層の充実が求められることはいうまでもありません。執行機関である常任幹事会、幹事会でのより活発な議論、きちんとした方向付けのもとで、「ホームカミングデイ」をはじめとする大学イベントへの参画・支援や基金への協力、広報体制の充実など、「神戸大学人」としての一体感を高めていくための地道な努力の積み重ねが必要であります。それを可能とするのは、卒業生との間に種々接点を有する各同窓会の活力・組織力の一層の強化と、同窓会間のオープンな雰囲気醸成であります。

それらの上に、異なる歴史と文化を有する各同窓会と学友会をつなぐものとして、欧州連合(EU)運営のキーワードである「補完性の原理の尊重」と「出来ることから手を付ける柔軟性」を念頭に、スピード感をもって学友会の更なる活性化を果たしたいと思っています。その延長線上で、従来の枠を超える、より広範囲な理念の実現に向けて、大学、育友会、各同窓会の皆様との協働関係を強めてまいりたいと考えています。

大学ご関係者におかれましても、その環境づくりに向けて、学内運営に一層のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

神戸大学同窓会・学友会

神戸大学の同窓会は、各学部や学科の成立過程によってそれぞれ独自の歴史と伝統を持ち、現在では10同窓会があります。一方、新制神戸大学の発足30年目に当たる1979年、同窓会の連合体として「神戸大学学友会」が組織されました。

各学部同窓会

- 文窓会(文学部)
- 翔鶴会(国際文化学部)
- 紫陽会(教育学部・発達科学部)
- 社団法人 凌霜会(経済学部・経営学部・法学部・国際協力研究科)
- くさの会(理学部)
- 神緑会(医学部医学科)
- 就進会(医学部保健学科)
- 社団法人 神戸大学工学振興会(略称KTC、工学部)
- 六篠会(農学部)
- 海神会(海事科学部)

1935年(昭和10年)生まれ
 1959年 神戸大学経営学部卒業、神戸銀行(現三井住友銀行)入行
 1997年 さくら銀行代表取締役会長
 2001年 三井住友銀行相談役
 2007年 同名誉顧問(現在)
(関西経済連合会副会長など経済団体職を歴任し、現在は兵庫県教育委員会委員も務めている)

2009年8月現在

2009年度育友会全学懇談会を開催しました

2009年度の神戸大学育友会全学懇談会を6月13日、神戸大学百年記念館(神大会館)六甲ホールで開催しました。ご夫婦で来学される方も多く、会場は約270人の新入生保護者等の皆さままで、ほぼ満席になりました。

最初に育友会を代表し、内田正志・新理事長があいさつ。入会のお礼のあと、懇談会に先立つ理事会で承認された事業計画等について報告し、更なる育友会活動へ協力をお願いします。

続いて福田秀樹学長が、大学時代に夢を見つけるように学生たちへ伝えて欲しいと、語りかけました。また田中康秀副学長

(教育担当)は、神戸大学の沿革や教育憲章について説明したうえで、本学では人間性豊かな人材を育てるため教養・外国語教育に力をいれていると強調しました。さらに石田廣史副学長(入試・学生生活担当)は、学生を支えるため、よりいっそうの大学との連携強化をお願いします。

全学懇談会終了後は各学部にて会場を移し、学部別懇談会が開催されました。各学部とも修学状況、学生生活や進路状況について質疑応答があり、熱心に意見が交換されました。

(学務課)

先輩登場 Alumni Corner

同窓生と昆虫館を復活

佐用町昆虫館館長 内藤 親彦

(1965年兵庫農科大学<現神戸大学農学部>卒、神戸大学名誉教授)



兵庫県の西端、緑豊かな船越山の麓に建つ「兵庫県昆虫館」は、県の財政難により37年の歴史に幕を閉じることが、2007年11月に新聞紙上で報じられました。自然環境教育に関心が高まる中で昆虫館閉館を憂い、神戸大学農学研究科昆虫機能科学研究室の竹田真木生教授や、同研究室卒業生で丹波の森公苑の足立隆昭アドバイザーおよび兵庫県立人と自然の博物館の八木剛主任研究員らが地元佐用町にその存続を働きかけました。同氏らは賛同者を募り、NPO法人を立ち上げて昆虫館を管理運営することを提案し、粘り強く町を説得した結果、町も昆虫館存続に踏み切りました。

「兵庫県昆虫館」は2008年3月に閉館し、展示物は撤去され、館はもぬけの殻となりました。NPO法人「こども

とむしの会」が2008年9月に正式に認可されたのを機に、館内の整備や展示準備が始まりました。37年間の垢落としから始まり、展示は全て会員の手作り・持ち寄りとなされました。幸いなことに熱心な会員が多く、自慢の標本や写真、パネルで館が埋まっていきました。

「こどもとむしの会」の正会員は現在80名で、中学・高校・大学の教員、博物館・昆虫館の研究員、自治体の職員、会社員、自営業者、年金生活者、主婦など、職業は様々です。共通点は、虫好き、自然好き、子供好き。正会員のうち、神戸大学の同窓生が13名を占めています。30代から70代で、多くは「こどもとむしの会」の役員や事務局員を担当し、会の中核的役割を担っています。

「佐用町昆虫館」は、我々NPO法人が指定管理者となり、

2009年4月4日に開館しました。開館は4月から10月の土・日に限っています。開館日には3~5名の会員有志が、館内の案内や昆虫の観察・採集・標本作りなどの自然体験学習の実施を、無給のボランティアとして交代で担当しています。開館後は多くの子供たちやご家族が来館され、喜ばれています。自然との距離が益々遠くなっていく今日、子供たちが昆虫や生きものと接する中で、自然の不思議さや面白さを体験し、自然の大切さを自らが身をもって感じることを願っています。



寄稿後に筆者から以下の追記が届きました

追記

2009年8月9日夜に佐用町を襲った集中豪雨により、昆虫館は土石流の直撃を受け、09年度の開館続行は不可能になりました。来春の再開に向け、会員一同奮闘する所存です。

保健管理センターだより



キャンパスの安全衛生を守る！

・・・神戸大学における産業医活動

国立大学が2004(平成16)年4月に法人化され、神戸大学をはじめとする旧国立大学においても、学校保健法(平成21年4月から学校保健安全法)に加えて労働安全衛生法に基づく安全衛生管理のあり方が求められるようになりました。神戸大学では労働安全衛生法に規定する職員だけでなく、キャンパスに集う全ての学生も含めた構成員全員の安全衛生を守る取り組みを行っています。保健管理センターにおける新たな取り組みとしての産業医活動もその一つです。

防災・減災をめざし、安全衛生をチェックする

キャンパスに行くカーキ色のジャケットの集団！産業医資格を持つ医師による産業医巡視です。産業医巡視では、事務室だけでなく、教室や研究室、課外活動施設などを見て回り、安全衛生の面で問題がないかどうかチェックしています(図1)。特に阪神淡路大震災を経験した神戸大学では、学生や職員の皆さんが学内にいる時間帯に地震が発生した場合にも人的被害を最小限にすべく、背の高い什器類のL字金具による倒壊防止措置や、その天板上に置かれた物品の撤去、絵画やテレビなど落下の可能性のある物品の固定、部屋の出入り口付近や室内通路・廊下・階段など緊急避難路に置かれた物品の撤去等に積極的に取り組んでいます(図2)。緊急避難路の確保は火災などの際にも役立つことです。また、「非常口の表示は見付けやすいか」、「消火器や緊急避難具はすぐ使用できる状態にあるか」、「ドアの施錠方法は防犯面だけでなく緊急避難

時にも配慮したものとなっているか」、「整理整頓清掃されているか」、「採光や換気は十分か」、「劇物・毒物など化学薬品、有機溶剤は適切に管理されているか」、「受動喫煙防止対策はとられているか」、などなど・・・チェックポイントはさまざまです。課外活動でのグラウンドの白線引きに、失明の原因ともなる消石灰が用いられていて、代替品に替えていただいたこともありました。巡視の結果は「産業医巡視報告書」(図3)として纏められ、各キャンパスの安全衛生委員会に報告の上、速やかな改善をお願いします。また、産業医巡視と同様に、各学部・研究科等の衛生管理者による巡視も行われています。

産業医巡視は全てのキャンパスで

労働安全衛生法では、職員の数に応じて「専属産業医」(職員数1,000人以上の事業場)、や「選任産業医」(職員数50~999人の事業場)を置くこととされ、神戸大学では最も大きなキャンパスである六甲台地区と楠地区(医学部医学科・医学研究科・医学部附属病院)に専属産業医を、名谷地区(医学部保健学科・保健学研究科)、深江地区(海事科学部・海事科学研究科)、住吉地区(附属住吉校)、明石地区(附属明石校)に「選任産業医」を配し、保健管理センターと医学研究科・保健学研究科の産業医がその任に当たっています。また、職員数が50人に満たない大久保地区(附属特別支援学校)や加西地区(附属食資源教育研究センター)についても、六甲台地区と併せて産業医巡視の対象としています。

長時間労働者に対する面接指導も！

さらに、2006(平成18)年4月の改正労働安全衛生法の施行に伴い、時間外労働時間が1ヶ月あたり80~100時間を超える労働者に、医師による面接指導を行うことになり、神戸大学では時間外労働時間が80時間を超える職員全員に面接指導を実施することとし、産業医が



(図1) 産業医巡視

中心になって行っています。1日8時間、週5日勤務の方が、一ヶ月あたり80時間(1日平均4時間)を超える時間外労働をすると、人間生活に必要な時間を除いた睡眠時間が1日6時間を切るようになり、脳・心臓疾患のリスクが高まるのです。面接の結果、心身の異常が発見された場合には改善策について話し合い、必要に応じて職場への改善勧告が出されることとなります。2009(平成21)年6月末までに面接指導を受けられた方は162人に上っています。また、学生の皆さんの中にも研究や研究発表の準備で徹夜に近い生活を続け、気を失って倒れたり、救急車で病院に搬送されたりする方があります。若いからといって油断することなく、最低でも6時間、できれば7~8時間の十分な睡眠をとっていただくことが大切です。



(図2) 地震時の減災のための改善措置の例
背の高い什器類のL字金具による倒壊防止措置(左上)、テレビの落下防止措置(右上)、背の高い什器類の天井上に置かれた物品の撤去【改善前(左中)と改善後(右中)】、緊急避難路に置かれた物品の撤去【改善前(左下)と改善後(右下)】

一人一人の健康と、集団としての健康と・・・

保健管理センターでは内科医や精神神経科医が、学生の皆さんにとっては保健管理医として、職員の皆さんにとっては産業医として、他のスタッフとともに健康診断や、その結果に基づく再検査・精密検査、健康状態の改善に向けた健康相談(「からだの健康相談」、「こころの健康相談」)、保健指導、病院・医院への紹介等を行っています。また、結核やエイズ(AIDS)、最近では麻疹、新型インフルエンザといった感染症の予防や感染拡大の防止に向けての健康教育や予防接種、調査研究活動などを行い、学生や職員の皆さん一人一人の健康とともに、集団としての健康(大学全体としての安全衛生)を保持・増進する活動を進めています。労働安全衛生法は、もともと工場など一般企業を念頭に置いて制定されたもので、職員をはるかに上回る数の学生(附属学校園においては園児・児

童・生徒)が集う大学における産業医活動は一般企業におけるそれとは異質な点もありますが、学生や職員の皆さん全ての安全衛生を守るべく、法の趣旨を生かした取り組みをこれからも続けてまいります。

参考

改正労働安全衛生法(平成18年4月1日施行)

睡眠時間を犠牲にしないでっ!・・・あなたの心と身体に休養を、

KOBE university STYLE, 8:19, 2007

藤平和弘、他:神戸大学における長時間労働者への医師による面接指導～時間外労働月80時間を超える全ての者を対象とするこの効果と意義～、CAMPUS HEALTH, 45:61, 2008

保健管理センターは・・・

六甲台キャンパス(本部管理棟2階)と深江キャンパスにあり、毎年の健康診断やその結果に基づく再検査・精密検査をはじめ、日常の救急処置、健康相談(「からだの健康相談」、「こころの健康相談」)、保健指導、健康教育、産業医活動、調査研究活動などを通じて、学生や職員の皆さんの健康をサポートしています。また、楠キャンパスと名谷キャンパスには「からだの健康相談」のための保健管理室と「こころの健康相談」室が設置されています。

● 保健管理センターだより 75

(神戸大学広報誌「六甲ひろば」から引き続き連載)

保健管理センターの詳細につきましては、保健管理センターホームページでも案内しています。

<http://www.kobe-u.ac.jp/medicalc/index-j.html>

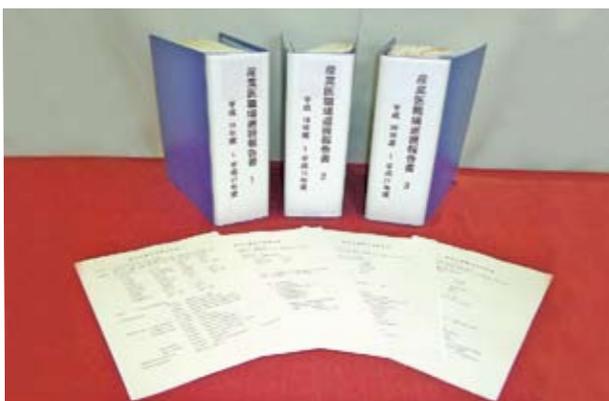
● お問い合わせ

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

[神戸大学保健管理センター] ☎078-803-5245

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町 5-1-1

[神戸大学保健管理センター-深江分室] ☎078-431-6232



(図3) 産業医巡視報告書



社会科学系図書館の正面

■ 建物について

神戸大学社会科学系図書館は、学内最大・最古の附属図書館である。旧制神戸商業大学図書館として1933（昭和8）年10月12日に竣工された。設計は文部省（文部大臣官房建築課）、施工は大林組、建築面積904㎡、総工費13万7,000円であった。鉄筋コンクリート造2階建てで、後方に5階建ての書庫が繋がる。増改築の多い書庫は、最も古い「書庫C棟」東側だけが文化財に登録され、今もそこだけは木製の床となっている。

建物の外壁は淡黄色のスクラッチ・タイル張り、軒下はロンバルディア・アーチのテラコッタ張りである。玄関ホールを入ると開放的な吹き抜け階段が正面に現れ、天井にはスタンドガラスのトップライトがあり、静寂の中に光が降り注ぐ魅力的な空間となっている。階段を2階へ上がると正面にメインカウンター、その奥に中山正實作の大壁画「青春」が出迎えてくれる。大壁画の中央下には大きな扉があり、そこから書庫C棟の3階に入ることができる。メインカウンターの反対側には「大閲覧室」があり、室内は心地よい緊張感が漂う。高い吹き抜けの大アーチ型天井にはスタンドガラスのトップライトが施され、重厚で歴史の重みを感じさせる木製の机がずらりと並ぶ。勉強研究に励む学生や教員らの真剣な眼差し。その威厳に満ちた室内は、当館を代表する顔となっている。

■ 大壁画「青春」

大壁画「青春」は、洋画家中山正實（1898-1979年）により3年の歳月をかけて描かれ、1935（昭和10）年10月に完成した。中山は、神戸大学の前身校の一つ、旧制神戸高等商業学校を1919（大正8）年に卒業し、2年後に帝展初入選、ついで洋行し、1924（大正13）年・1926（大正15）年の2回にわたりパリのサロン・ドートンヌに入選した。帰国後は1927（昭和2）年より5年間毎年帝展に入選する。1932（昭和7）年、34歳で中山は、神戸商業大学初代学長田崎愼治から壁画制作の依頼を受けるや、一切の展覧会出品を絶って画室に閉じ籠もり、ひたすら壁画制作に没頭した。完成した壁画は、縦3.64m、横10.91m、見る人を圧倒させる巨大なものとなる。24名の青年たちと1名の老人が等身大で描かれ、

神戸大学の文化財〈その4〉

国登録有形文化財

「神戸大学社会科学系図書館」

神戸大学には、国の登録有形文化財が4つある。いずれも前身校の一つである旧制神戸商業大学の建物として1930年代前半に設置された。今回はその一つ、社会科学系図書館を取り上げてみたい。

「大学の理想」を示す11個のテーマが設定されている。画面中央上にはメインテーマ「理想」を示す遙か遠くの高く清らかな雪の連峰が描かれており、その下には、雪の連峰を眺める青年が描かれ「希望」を示している。画面右半分の「動の世界」には5個のテーマがあり、「謳歌」を示す横笛を吹いて青春を謳歌する青年、「友情」を示す水を汲む青年と薪を拾う青年、「勤労」を示す働く青年、「協同」を示す岩を登る青年と彼を引き上げる青年、「試練」を示す丘を駆ける馬上の青年が描かれている。左半分の「静の境地」には4個のテーマがあり、「平和」を示す鳩を眺める青年、「思索」を示す湖畔で1人思索にふける青年、その隣には天上の真理を希求する老人とその語り聞き入る青年たちの姿で「学究」を示し、動物とたわむれる青年の姿で「休息」を示している。なお、前述のテーマ「友情」は、江戸時代後期の儒学者広瀬淡窓による漢詩の一節「君汲川流我拾薪（君は川流を汲め、我は薪を拾わん）」をモチーフとしている。

■ 文化財への登録

本建物は昭和初期の学校建築の好例であり、2003（平成15）年3月18日に「造形の規範となっているもの」として国の登録有形文化財に登録され、同年4月8日文部科学省告示第69号により告示された。登録名は旧略称「人文社会系図書館」。登録番号は第28-0120号である。

（神戸大学百年史編集室講師 野邑理栄子）



2階メインカウンター。奥に大壁画「青春」

学生歌 ^おこの^か丘陵^にに

作詞/小林 俊彦
作曲/福本 寿朗

行進曲風に堂々と



1. 2. 3. 4.
このおかの丘陵にわたれらひとつとつきのひうたまもる
このおかの丘陵にわたれらひとつとつきのひうたまもる
このおかの丘陵にわたれらひとつとつきのひうたまもる
このおかの丘陵にわたれらひとつとつきのひうたまもる



1. 2. 3. 4.
しんりつとじりちのかりびたやすなくいまこ
しんりつとじりちのかりびたやすなくいまこ
しんりつとじりちのかりびたやすなくいまこ
しんりつとじりちのかりびたやすなくいまこ



1. 2. 3. 4.
わたかきひーのいのちをかけてひ
わたかきひーのいのちをかけてひ
わたかきひーのいのちをかけてひ
わたかきひーのいのちをかけてひ



1. 2. 3. 4.
たしぶーにーおかかにもさーん
たしぶーにーおかかにもさーん
たしぶーにーおかかにもさーん
たしぶーにーおかかにもさーん

- 一、この丘陵にわれら
ひとつの火まもる
真理と自治の篝火
絶やすなく いまここに
若き日の 生命をかけて
ひたぶるに 丘陵に燃やさん
- 二、この丘陵に流る
青春の宴うた
情熱と理想をこめて
さわみなく 海のはてに
友よ調べ合せて歌え
愁いある 若きころを
- 三、この丘陵に映ゆる
淡き花影
人の世の独りの旅の
果てしなく 尽きずとも
わが夢は また褪せるなく
丘陵の日を巷に想う
- 四、この丘陵にわれら
久遠の旗かかぐ
自由と正義のとりで
かがやける あしたのために
惜しみなく 今日をささげて
若き旗手 丘陵に消えず

学生歌として学生部学生課により学内公募された。詞は教官、学生代表による審査を経て、1963年12月、経営学部第二課程5年生小林俊彦の作品が入選。続いて詞につける曲も公募され、翌年2月、工学部卒業生(1962年卒)福本寿朗の作品が選ばれた。

(神戸大学百年史編集室)



<http://www.kobe-u.ac.jp>